

令和7年度

札幌市文化芸術創造活動支援事業
実施レポート

札 幌 市

市民文化局文化部文化振興課

目次

	ページ
1 札幌市文化芸術創造活動事業と体制	1
2 公募概要	2
3 選定委員会	3
4 採択事業者	3
(1) 一般社団法人AISプランニング	4
(2) 一般社団法人PROJECTA	6
(3) スパークプラグ・アライアンス	8
(4) Sapporo Culture Knot Week 実行委員会	10
(5) Projects HAKI-DASHI 運営委員会	12
5 札幌市の取り組み	14
6 評価検証委員会	15
7 令和8年度に向けた改善点	16
8 今後の検討の見通し	17
9 過去に実施した事業	18
(1) 令和4年度	18
(2) 令和6年度	19

1 札幌市文化芸術創造活動支援事業と体制

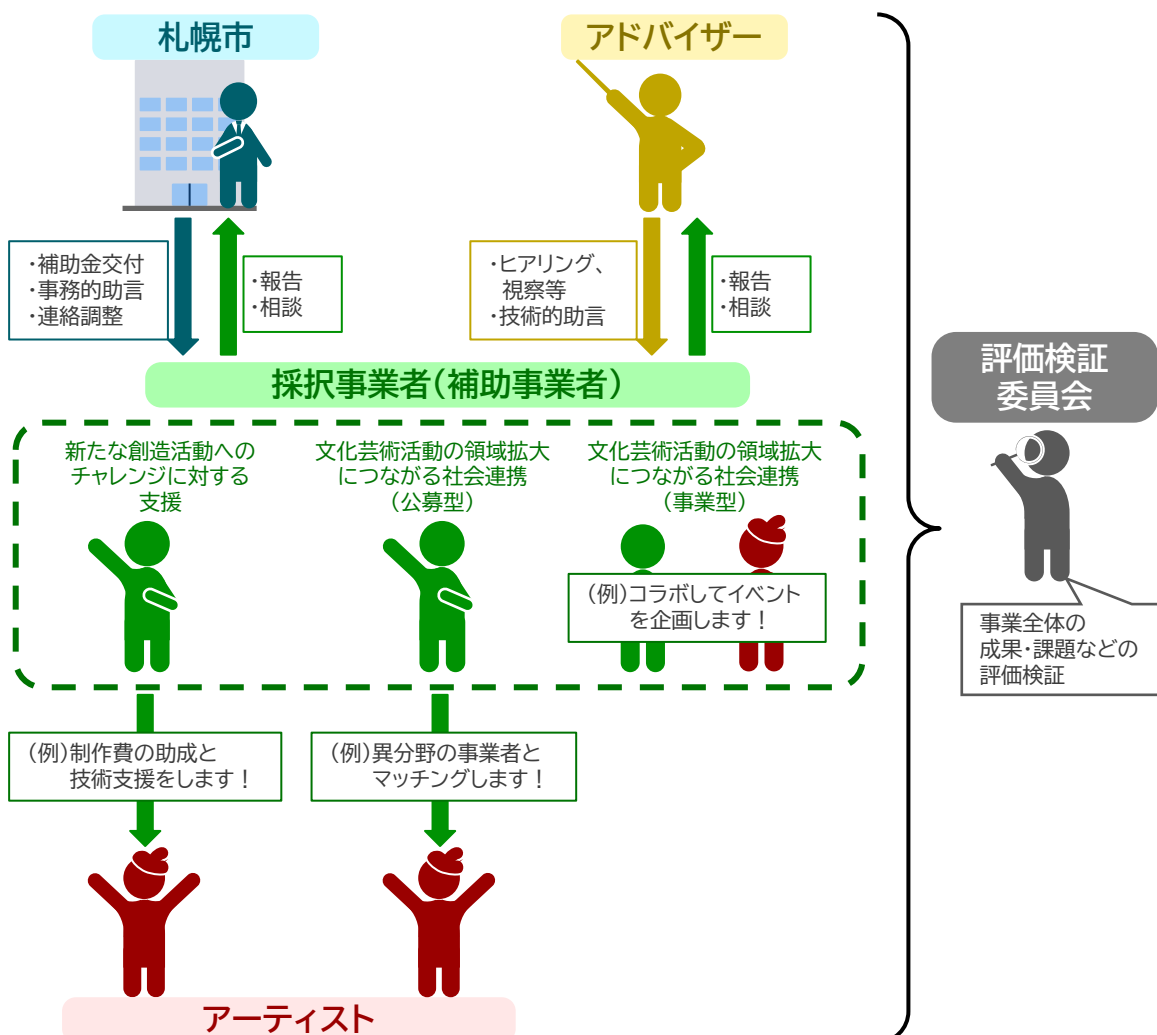
「札幌市文化芸術創造活動支援事業」は、新しい形のアーティスト支援制度として実証実験の位置づけで行っているものです。本事業では、中間支援組織等が札幌市の補助を受けながら、各々のノウハウや課題感に基づく多様な取組を行います。また、道外の専門家に協力をいただき、取組をより良いものとするための助言を受けられる仕組みを設けています。加えて、事業の評価にあたっては有識者からなる「評価検証委員会」に外部の目線で評価を行っていただいています。

【実証実験のねらい】

本事業では、「新しい創造活動への支援」「中間支援団体へのサポートを通じて、文化芸術への支援をすること・アートの手を育成すること」「文化芸術と社会的課題の連携」の3点について、これらが助成事業を通じて札幌で機能するのか、それによって社会に変化をもたらす可能性があるのか、ということを検証しています。

この検証を通して、札幌市における新たな支援のあり方を検討します。

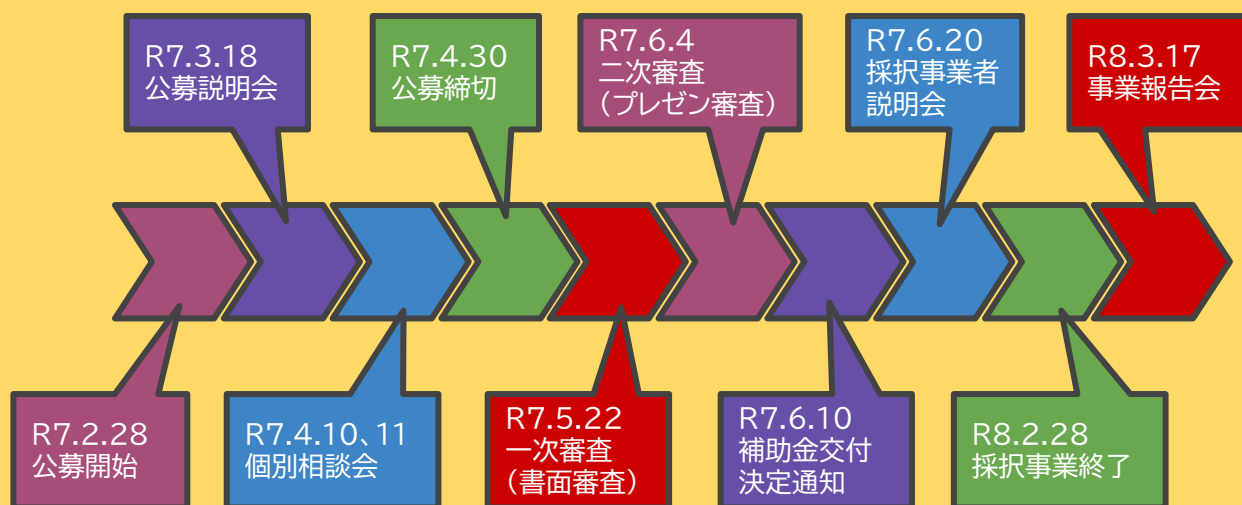
- ◇札幌市(事務局)が、採択事業者(補助事業者)に対し、補助金を交付します。
- ◇採択事業者(補助事業者)は、その補助金を活用し、アーティストの活動を支援します。
- ◇採択事業者(補助事業者)は、アドバイザーに相談し助言を得ることができます。
- ◇本事業における全体の評価は「評価検証委員会」で行います。



2 公募概要

応募区分		新たな創造活動への チャレンジに対する支援	文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携	
			公募型	事業型
補助限度額		300万円	200万円	100万円
補助率		◇補助限度額内で、補助対象経費の全額(10分の10)を補助する ◇収入が生じた場合は、当該収入額を補助額から相殺(減額)する		
補助 対象 期間	地域 要件	◇応募者が札幌市内に 拠点を有する団体ま たは札幌市内を主な 拠点とする個人であ ること ◇札幌市内を活動拠点 とするアーティストを 支援対象とすること	◇応募プロジェクトが札幌市内で行われる活動で あること(応募者の拠点は問わない) ◇札幌市内を活動拠点とするアーティストがプロ ジェクトに参加すること。ただし、より効果的にプ ロジェクトを推進するため必要と判断される場合 に、札幌市外を活動拠点とするアーティストを併 せて参加させることを妨げるものではない	
	公募の 有無	◇支援対象のアーティ ストを広く公募するこ と	◇プロジェクトに参加す るアーティストを少な くとも1名公募するこ と	◇特に公募を要件とは しない
応募件数		8件	12件	18件
採択件数		1件	3件	1件

《事業スケジュール》



3 選定委員会

令和7年度は以下のメンバーにより採択事業の審査・選定が行われました。

氏 名	所 属 等 （令和8年3月31日時点）
遠藤 水城	東山アーティスト・プレイメント・サービス エグゼクティブ・ディレクター
酒井 秀治	北海道教育大学岩見沢校 准教授
野村 政之	信州アーツカウンシル ゼネラルコーディネーター
関 鎮京	北海道教育大学岩見沢校 准教授
米森 正貴	札幌市市民文化局 文化部長

4 採択事業者

【新たな創造活動へのチャレンジに対する支援】

一般社団法人 **AISプランニング**

アーティストの創作活動を支援するための
チームビルディング事業

詳細➡4ページ

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(公募型)】

一般社団法人 **PROJECTA**

Sapporo Art Index 2025
「社会連携事業」

詳細➡6ページ

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(公募型)】

スパークプラグ・アライアンス

教育とアートをつなぐネットワーク事業

詳細➡8ページ

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(公募型)】

**Sapporo Culture
Knot Week 実行委員会**

アーティスト・文化拠点を結ぶ
分野横断型連携支援事業

詳細➡10ページ

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(事業型)】

ProjectsHAKI-DASHI運営委員会

吐き出し喫茶：ケアとアートが交わる新たな
公共空間を探る実践的取組

詳細➡12ページ

(1) 一般社団法人 AISプランニング

アーティストの創作活動を支援するためのチームビルディング事業

◇アーティスト自身が新たな表現方法を模索したり、これまでとは異なる活動の機会の場を創出したりといった、新たな創造活動へのチャレンジを支援する「アーティストの創作活動支援プログラム」と、現場の見学・参加を通じて、アートプロジェクトを俯瞰し、実践に生かすことのできる人材の育成を目指す「創造活動支援人材育成プログラム」を実施。

～～基本情報～～

事業費 総 額	3,198,469円
補助金 交付額	3,000,000円
支援 対象者数	創作活動支援プログラム 4名 人材育成プログラム 19名
公募への 応募者数	公募相談会 25名 創作活動支援プログラム 17名 人材育成プログラム 19名
他分野の 関係者数	8団体(小学校、商店街等)

～～活動日程～～

7月	◇合同説明会
8月	◇創作活動支援プログラム相談会
9月	◇第1回チームビルディング合同会議
10月	◇アーティストへの個別聞き取り ◇第2回チームビルディング合同会議
11月	◇刺繍ワークショップ開催 ◇第3回チームビルディング合同会議
12月	◇人材育成プログラム「ハラスメントについて考える会」
1月	◇第4回チームビルディング合同会議 ◇本気で文化を楽しむ人の夜会 ◇活動展示・パフォーマンス
2月	◇公開制作 ◇人材育成プログラム「アーティストの緊張した身体をほぐす会」 ◇アーティストへの個別聞き取り ◇合同報告会

～～他分野との連携状況～～

(◎:団体・個人の概要 ●:連携内容)

【豊水地区万灯保存会】

◎万灯(笛、太鼓などのお囃子)の文化を継承・保存する活動を行う団体で北海道神宮祭などで奉仕

●支援アーティスト小松菜々子さんのリサーチへの協力

【一般社団法人ねづく】

◎上士幌町で、芸術文化醸成に関する事業を実施。空き家事業、教育・福祉に関する事業も手掛ける

●支援アーティストの小松菜々子さんのリサーチへの協力

【まちづくり会「いきいき南平岸」、南平岸商店街振興組合】

◎南平岸地区でまちづくり活動を実施

●天神山文化祭での企画協力

【市内小学校4校】

●人材育成プログラム参加メンバーの見学、実践活動の受入協力

～プロジェクト詳細～

支援アーティスト

風間 雄飛

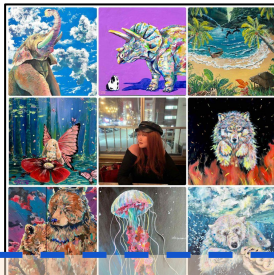
- ◇版画家。今回実施したプロジェクト「SURI-PRO」は、版画の啓蒙や版画の喜びを知る人を増やしたいという思いで企画したもの。
- ◇支援期間内に小林大賀氏、同じく支援アーティストの桑迫伽奈さんと共同制作を行った。



- ・記録写真撮影
- ・活動記録の執筆

川崎 乃佳

- ◇アクリル画家。バンクーバー美術館での個展開催を目指し、展示会などでの経験を積む。
- ◇今回の支援期間中には、カナダのレイクカウチン町と姉妹都市提携を結んでいる北海道伊達市大滝区(旧大滝村)での展示会を行ったことで、レイクカウチン町での展示が実現した。



- ・記録写真撮影
- ・活動記録の執筆
- ・展示販売会場の提供
- ・広報支援

人材育成プログラム

19名が参加。創作活動プログラムの支援対象アーティストのサポートを行うほか、AISプランニングが行う別事業にも参加。昨年度に比べ活動予算を増やすことで、見学だけでなく実践的な活動ができる体制とした。これにより現場に関わった経験が積みまれ、人材育成メンバー間においても協議してイベントを企画・運営するなど、コーディネート実践を行う機会が生まれた。

- ・記録写真撮影
- ・活動記録の執筆
- ・リサーチ先の提案、同行

桑迫 伽奈

- ◇写真家。写真への刺繍、ドローイングなども行う。常に締切に追われる制作活動を一旦止めたいとして応募。
- ◇他の支援アーティストとの共同制作や、天神山アートスタジオへの滞在などを通して充電期間を過ごした。



小松 菜々子

- ◇ダンサー、振付家。神戸在住だが、自身の家族のルーツが北海道にあることから、「移住と身体」をテーマに道内各地の資料室や商店街などで、祭りや盆踊りについてのリサーチを実施した。



- ・記録写真撮影
- ・活動記録の執筆
- ・リサーチ先の提案、同行
- ・中間発表への出演協力

～事業者コメント～

- ◇今年度は、アーティスト同士や人材育成プログラムへの参加メンバー間、また他の採択団体も含めた横の繋がりを作ることを意識しました。その結果、アーティスト同士のコラボレーションが生まれるなど、当初予定していなかった展開が生まれました。
- ◇創作活動においては、各々の進め方の自主性を担保し、自由度の高い伴走支援を行うことができ、アーティストからも好評をいただきました。
- ◇今回は、公募の段階から個別で相談会を実施するなど、話し合いの場を作ることを意識した結果、アーティストに対して必要なサポートを行うことができたように感じています。
- ◇本事業を行う中で、アーティスト達が柔軟性やチャレンジ精神を持ち、積極的に社会に関わろうとする姿に気づきました。そんな彼らの活動が異分野で新たな価値を生み出す可能性を感じるのと同時に、中間支援としてつなぎ役となるパートナーが必要だと実感しました。

(2) 一般社団法人 PROJECTA

Sapporo Art Index 2025「社会連携事業」

- ◇アーティストやカルチャーワーカーの自立的な活動を支援するための無料スクール「インディペンデントのスクール」の開講と、公共空間を舞台に、スクール生で作り上げるアートプロジェクトを行う実践型ステップアップ支援として、まちの空白をアートで彩る「Art in Public」を実施。
- ◇スクールでは、国内外で活躍するキュレーター等を講師に迎えたレクチャーと、Art in Publicに向けたディスカッションを行った。

～～基本情報～～

事業費 総 額	2,058,930円
補助金 交付額	2,000,000円
支援 対象者数	スクール受講者 20名 Art in Public出展者 4名
公募への 応募者数	スクール受講希望者 37名 Art in Public出展希望 8名
他分野の 関係者数	3社(5名)

～～活動日程～～

8月	◇インディペンデントのスクール公募開始 ◇オンライン公募説明会①
9月	◇オンライン公募説明会② ◇インディペンデントのスクール審査会 ◇レクチャー①
10月	◇レクチャー②
11月	◇ディスカッション① ◇レクチャー③
12月	◇ディスカッション② ◇Art in Public審査会 ◇レクチャー④
1月	◇ディスカッション③
2月	◇Art in Public (チカホ会場 2月13日～15日) (仮設壁会場 2月25日～翌年3月末)

～～他分野との連携状況～～

(◎:団体・個人の概要 ●:連携内容)

【札幌駅前通まちづくり株式会社】

◎サッポロ・パラレル・ミュージアムやThink Schoolなど、アートと公共に関わる事業や担い手育成事業等を数多く展開

●Art in Publicでの仮設壁展示およびチカホ展示への協力

【SAPPORO CULTURE FARM／凹場anaba】

◎三菱地所㈱が所有する「北海道ビル」跡地を、(一社)SAPPORO PLACEMAKING LABOおよびNo Maps実行委員会が場所の提供を受け、仮設型複合拠点「SAPPORO CULTURE FARM／凹場anaba」として共催している

●Art in Publicでの仮設壁展示への協力

~~プロジェクト詳細~~

インディペンデントのスクール

- ◇アーティスト、アートワーカー、ならびにアーティストを志す方を対象とした、自立した活動を継続するための知識と実践を無料で学べるスクール。
- ◇受講を通じて受講生同士や講師とのネットワークを築き、修了後の活動に繋がる機会を広げる。
- ◇修了後は、成果展として公共空間を活用した展示プロジェクト「Art in Public」への参加機会がある。

- 令和7年9月24日(水)
テーマ:「公共とアート」
講師:高橋喜代史(美術家／(一社)PROJECTA)
- 令和7年10月31日(金)
テーマ:「都市とアート」
講師:毛利嘉孝(社会学者／東京藝術大学大学院教授)
- 令和7年11月28日(金)
テーマ:「過疎地の絵画、生活と聞き取りと制作実践」
講師:岩名泰岳(画家／蜜ノ木講代表)
- 令和7年12月11日(木)
テーマ:「アートマーケット入門」
講師:山本裕子(ANOMALYディレクター／日本現代美術商協会代表理事)

《メンター》

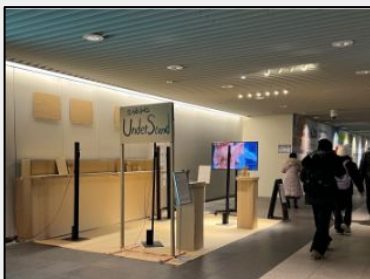
佐野由美子(CAI03ディレクター)、鈴木涼子(美術家)、
高橋喜代史(美術家／(一社)PROJECTAディレクター)



Art in Public

- ◇札幌中心部の公共空間を舞台に開催する「インディペンデントのスクール」修了生による成果展。
- ◇修了生の中から作品出展を希望する参加者を募り、作品プランの公募・選考を経て採択された企画を発表した。
- ◇プロセスや嗜好に着目した表現をパブリックな場に開くことで、アートと都市、そして人々が交差する場を創出する。

- チカホ会場
出展:山口哲志
会期:令和8年2月13日(金)～15日(日)
会場:札幌駅前通地下歩行空間(憩いの空間E)
- 仮設壁会場
出展:仲村うてな
会期:令和8年2月25日(水)～令和9年3月末
会場:(仮称)北海道ビルディング建替計画仮壁(中央区北2条西4丁目)
- インディペンデントスクール生の自主企画
「インディペンデントのスクール」のスクール生の中で自主的に立ち上がった企画チームによる自主企画の実施
☞ パフォーマンスとそのアーカイブ(出展:堀内まゆみ、マシュマロ美)
☞ 高齢者体験キットを装着して街中をめぐるツアー(企画:大村直子)
☞ 山口哲志、仲村うてなによるアーティストトーク(企画:児玉愛美)



~~事業者コメント~~

- ◇本事業はとても自由度の高い事業のため、アーティストの切実かつ逼迫した課題に対して、いま最も必要とされている支援ができていくという手応えを感じることが多々ありました。
- ◇今回のプロジェクトでは、街の中心部の仮設壁に一年以上作品を掲示できることになり、これは公共的なインパクトが大きいと感じます。ノウハウも蓄積できたので、今後の展開も考えていけそうです。
- ◇将来的な展望として、オフィスやホテルなどに作品を設置していくように事業化ができると、アーティストやカルチャーワーカーの仕事を作ることができると考えています。また、学生のモチベーションが高い印象を受けたので、学生や若者向けの企画も考えていきたいと思っています。

(3) スパークプラグ・アライアンス

教育とアートをつなぐネットワーク事業

- ◇教育とアートをつなぐネットワークを推進し、アーティストと教育現場の連携を深める事業。
 範囲を学校教育だけに狭めずに、オルタナティブスクール、アートスクール、プレーパーク、福祉施設など幅広く捉え、対象者も子どもや学生を中心に据えながら全年齢を視界に入れて活動を展開。
- ◇語り場やサマースクールの実証実験、教材開発、オンライントーク、アーティストと教育者の対談企画などを通して、アーティストや芸術団体に新たな仕事の種を生めないか考え続け、創造活動の持続可能な仕組みづくりを目指した。

～～基本情報～～

事業費 総 額	2,008,653円
補助金 交付額	2,000,000円
支援 対象者数	教材開発 2名 その他実践 16名
公募への 応募者数	6組
他分野の 関係者数	9名

～～活動日程～～

8月	◇教材開発・探求学習支援プログラム審査会
9月	◇アーティストmeets教育者① ◇オルタナティブ教育サマースクール
10月	◇アーティストmeets教育者②
11月	◇ひらかれた対話の旅①②③ ◇語る広場
12月	◇語る広場オンライン ◇地域政策学会北海道支部大会で発表
2月	◇教材開発 ◇合同報告会 ◇語る広場(美術教員編)

～～他分野との連携状況～～

(◎:団体・個人の概要 ●:連携内容)

【村上彩子】

- ◎SDGsファシリテーター
- サマースクール講師として参加

【麻生クミ】

- ◎バティック(ろうけつ染め)アーティスト
- リサーチのアテンドとして協力

【伊原剛】

- ◎フレンド森のがっこう理事長
- 取材協力と今後の連携についての情報共有

【川原悟】

- ◎㈱イザナホールディングス代表取締役
- 今後の連携について情報共有

【Aroma Stylist Mika】

- ◎アロマアーティスト
- 訪問リサーチへの協力

【佐々木美和】

- ◎㈱タメニ専務取締役
- 取材協力と今後の連携についての情報共有

【北村志乃／遠藤京子】

- ◎そとまこプレーパークスタッフ
- 取材協力と今後の連携についての情報共有

【北海道札幌白陵高等学校】

- 探究学習のサポート
- 30周年記念事業の橋渡し

～プロジェクト詳細～

教材開発支援プログラム

- ◇アーティストと教育関係者の協働により、アートの視点や手法を生かして「教育の現場に新しい風を吹き込むこと」を目的とした助成プログラム。
- ◇公募により2名(保育士、高校教諭)を採択し、それぞれアーティストと協働し実践を行った。
- ◇採択者2名と協働したアーティストは互いに新たな発見があり、次につながる学びの機会となった。また、「アーティストmeets教育者」と題した対談企画も行った。



ひらかれた対話の旅

- ◇様々な施設を訪問し、アートと異分野による対話を通じて相互理解を深めるプログラム。
- ◇福祉モールGIFT's、浦河フレンド森のがっこう、そとまこプレーパークの3つの施設を訪問した。



サマースクール

- ◇オルタナティブ教育を主軸としたサマースクールを実施し、アーティストが参加者とアートを通じたオンラインと対面による交流を行うプログラム。
- ◇参加者は13名(うち子ども8名)で、講師のアーティスト5名が企画したプログラムに参加し、交流を深めた。



語る広場

- ◇アーティスト、教員、福祉支援団が集う「語る広場」を定期的に開催し、交流や意見交換を通じて相互理解や連携のきっかけを生み出すプログラム。
- ◇11月の対面式「語る広場」には28名、12月の「オンライン語る広場」には15名、2月の「語る広場美術教員編」には7名の合計50名が参加した。



～事業者コメント～

- ◇本事業は、活動を始めて実質2年目となります。今年は、組織が自走していくためにはどんなことが必要か、という問いを根底に持ちながらオルタナティブ教育やプレーパークなど、見えにくい分野に飛び込んでいきました。
- ◇今年度は、小さなコミュニティの中で、小さな成果と信頼を積み上げてきたような感覚があります。その中で参加してくれた教育者にはアートのポテンシャルが認知され、アーティストにはプロセス重視で取り組んでいただいた結果、失敗を含めて学びに繋げることができました。一方で、文化芸術が提供できる商材の不足という課題を感じました。
- ◇文化芸術はこれまで「公演」、「ワークショップ」、「作品販売」などをメイン商材としてきましたが、それぞれの教育現場に向けて、よりカスタマイズした体験や探求の商材・教材を柔軟に開発し、広く社会に投げかけるべきではないかと考えます。搾取や無理解とは距離を置き、自分たちのより良い創造環境を作っていけないかと考えています。

(4) Sapporo Culture Knot Week 実行委員会

アーティスト・文化拠点を結ぶ分野横断型連携支援事業

- ◇札幌市内に点在する文化拠点およびアーティストの実践をゆるやかに結び直し、分野横断的なネットワーク形成を図ることを目的とした事業。市内のギャラリー、劇場、ライブハウス、書店等を会場として企画公募を行い、採択した10企画に対して活動費助成を行うとともに、広報・技術面・企画運営に関する相談対応等のサポートを実施した。
- ◇採択企画者同士の情報共有や交流の機会を設けることで、分野を超えた連携や回遊が生まれ、継続的な関係構築の基礎づくりにつながるとともに、今後の文化芸術活動を支える仕組みづくりに向け、課題と可能性を確認する機会となった。

～～基本情報～～

事業費 総 額	2,179,515円
補助金 交付額	1,999,515円
支援 対象者数	採 択 10企画 関連企画 36イベント
公募への 応募者数	14件
他分野の 関係者数	19社

～～活動日程～～

6月	◇実行委員会顔合わせ ◇企画公募要綱作成・審査員依頼
7月	◇企画公募受付(17日～31日)
8月	◇企画公募審査会・結果通知
9月	◇企画についての相談対応・サポート
10月	◇広報準備開始 ◇公募採択団体と打合せ ◇Discordサーバー立ち上げ
11月	◇Sapporo Culture Knot Week (～12月15日)
1月	◇「ハラスメントについて考える会」参加 ◇「録音の肉声」出演

～～他分野との連携状況～～

(◎:団体・個人の概要 ●:連携内容)

【ART AleRT SAPPORO】

◎札幌で数多く実施しているイベント情報をAleRT(アラート)のようにお知らせするサイト

●広報協力

【(株)トーチ】

●事務局イベント配信会場(takibi)協力

●関連企画(録音の肉声のSapporo Culture Knot Weekの回)への協力

【小田原のどか】

◎彫刻家、評論家

●事務局イベントゲスト

【矢倉あゆみ】

●SNS広報への協力

【寺田健人】

◎写真作家

●事務局イベントゲスト

【HAUS】

●ハラスメントについての連携等

～～プロジェクト詳細～～

採択企画

プロジェクト名	アーティスト・主催	会場	来場者数	概要
A spicy Tanuki スパイスタヌキ、夢を見る。	NOJI	&スパイシータヌキ	約500名	ジェラート店での展覧会
音楽×演劇 「ジャックと豆の木」	野沢麻未、根深夏、 福井岳郎	札幌豊平教会	50名	ファミリー向け公演
ku-kan ARTIST' S FES	空間 (川上大雅、大橋鉄郎)	空間	約300名	展示、販売等の交流型アートイベント
蔵の開放日#2	二転三転	Seesaw Books	17名	選ばれた“問い”の哲学対話
札幌で先住民族アイヌを考えるマ ジオリティ・ネットワーク形成の試み	札幌マジョリティ・ネッ トワーク実行委員会	Seesaw Books	67名(うちオン ライン20名)	マジョリティ同士で話し合う会議
二十四時間火の世話をしながら苗 穂基地をつかう	苗穂基地	苗穂基地	約35名	苗穂基地に集まる人々の創作・発表
PANCETTA Special Performance"Gouche"	PANCETTA	生活支援型文化施設 コンガリーニョ	225名	演劇公演
前田明日美「ほどけたコーラス chorus set free」	前田明日美	空き地(別室)	約200名	個展
まもかまぶる展	かまあげ、まも、 ぶるぶる	札幌ビストロカフェ+ ギャラリー・オマージュ	約80名	グループ展
宮崎竜成個展&宮崎竜成 ×shukatsuプロジェクト「ありあ まる富」	宮崎竜成	0地点、苗穂基地	117名	個展、 ワークショップ



～～事業者コメント～～

- ◇このプロジェクトは、自分が様々な人から相談を受ける中で「アーティストが直面する様々な課題(広報・技術面・企画内容の悩み・人との繋がりの不足など)は、分野を横断したネットワークにより解決に向かうのではないか」という仮説を立てたことが発端となり発足しました。
- ◇採択団体に助成金を交付するほか、実施過程における相談を受け付けたところ、予想以上に相談が寄せられ、活動者にとって伴走型支援のニーズが大きいことがわかりました。一方、プロジェクト自体の運営体制や予算構造には課題が残りました。
- ◇運営費の予算措置が十分でなく、アーティストをサポートするチームとしての基盤が脆弱だったと思います。
- ◇札幌における中間支援組織やアートワーカーが置かれている現場を支える人々の働きが評価されにくいという状況を自分たちが体現してしまったと実感しました。
- ◇このことや情報の開かれ方についての課題の解決を目指すには、構造的なアプローチの必要性を感じています。

(5) Projects HAKI-DASHI 運営委員会

吐き出し喫茶:ケアとアートが交わる新たな公共空間を探る、実践的取組

- ◇喫茶店の形を借りた1DAYアートイベントである吐き出し喫茶の場を継続的に開き、アーティスト、ソーシャルワーカー、整体師、その他多様なバックグラウンドを持つ人々が喫茶店店主として参加者と対話を重ねながら、メニューと称したレクリエーションやワークショップを通して共同創作を行った。
- ◇アートと福祉という異なる領域が重なり合うことで、従来の制度やコミュニティにアクセスしづらかった人々を含む多様な参加が実現された。また、芸術と福祉各自の観点から議論し、その場に必要なルールメイキングを行った。

～～基本情報～～

事業費 総 額	1,156,460円
補助金 交付額	1,000,000円
参加者数 (累計)	118名
公募への 応募者数	—
他分野の 関係者数	8名

～～活動日程～～

7月	◇内部勉強会 ◇吐き出し喫茶(7月)
8月	◇吐き出し喫茶(8月) ◇他都市のリサーチ(大阪) ◇プロボノ募集(～9月15日)
9月	◇吐き出し喫茶(9月)
10月	◇吐き出し喫茶(10月) ◇内部勉強会 ◇精神障害者リハビリ学会で発表
11月	◇吐き出し喫茶(11月)
12月	◇吐き出し喫茶(12月)
1月	◇吐き出し喫茶(1月)
2月	◇吐き出し喫茶(2月)

～～他分野との連携状況～～

(◎:団体・個人の概要 ●:連携内容)

【(株)エールアライブ】

- ◎就労移行支援事業所
- 福祉領域の専門家として協力

【藤原整体院】

- ◎整体院
- 整体の施術による、心と身体のケア

【三〇一会館(一般社団法人WHO CARES)】

- ◎セーフハウスを運営する非営利団体
- 会場協力

【わたなべひろみ】

- ◎フリーライター
- 記録、撮影

【珍問屋】

- ◎バー(すすきの)
- 会場協力

【絵本とカフェ ゴルディロックス】

- ◎カフェ
- 会場協力

【苗穂基地】

- ◎多目的レンタルスペース
- 広報協力

【ゲストアーティスト】

- ◎次ページに掲載
- 吐き出し喫茶店主としてメニューを企画

~~プロジェクト詳細~~

吐き出し喫茶

年月日 (曜)	会場	ゲスト店主	ゲストメニュー	備考
R7.7.26 (土)	イートアライブ	小林大賀 (映像、絵本作家・画家)	人形をつくるワーク シヨップ	ウォーリドールなどを作り自 分の吐き出しを外から眺める
R7.8.23 (土)	イートアライブ	内田聖良 (現代美術家)	バーチャル奉納体験	想いでの品々を3Dスキャンし バーチャル供養堂に奉納する
R7.9.27 (土)	イートアライブ	きたまり (振付家)	ボディランゲージテイ ラー	身近な題材で不思議な動きを 作る
R7.10.18 (土)	三〇一会館	風間天心 (美術家、僧侶)	神様づくり、おまじない づくり	像に絵付けをして自分の神様 を作り、オリジナル儀式を行う
R7.11.16 (日)	イートアライブ	小島翼斗 (セクシャリティフリーバー 「7丁目」のママ)	ドラッグメイク、カラオケ	ドラマチックなメイクで気分を 盛り上げる
R7.12.21 (日)	珍問屋	深澤孝史 (美術家)	(悪)霊の戸籍登録受付 窓口、山の神メニュー	架空のマイナンバーカードを発 行する
R8.1.17 (土)	絵本とカフェ ゴルドロックス	米本智昭 (青峯山観音寺住職)	こころのお焚き上げ、阿 宇観瞑想、写仏体験	誰かにつなげたい想いを音楽 とともに焚き上げる
R8.2.21 (土)	苗穂基地	石岡美久 (ファッションデザイナー)	ファッションショー	服や小物を身に着け、見せ合っ たり、写真を撮ったりする

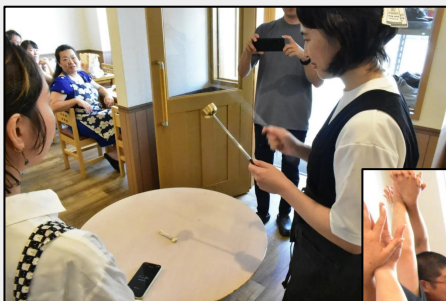


写真:わたなべひろみ

~~事業者コメント~~

- ◇芸術と福祉、そのほか多様な背景の関係者・参加者が集まることで、互いにとっての出会いと気づきが生まれました。
- ◇支援でも治療でもない、アート×ケア実践だからこそ、集まる多様な人をつなぎ、支援関係からは零れ落ちてしまいう感情を認め、社会的・精神的なケアを行うことができます。即興的な関わりの中で、新たな表現が生まれます。本事業はこれらを、波及可能な形で、公共の場の実装しようと試みたものです。
- ◇芸術と社会の関わりについて言えば、古代ギリシャ時代から劇場は、市民が集い議論する、共同体形成の装置です。本事業は、アートを通じて人々が集い、創作と対話を行う劇場実践でもありました。
- ◇事業を行う中で、アートワーカーのセルフケア意識について議論する機会を持ちました。アーティスト自身がメンタルヘルスの知識を持つことや、当事者性を共有することは、創造活動環境に対する意識向上につながります。

5 札幌市の取り組み

～札幌市の文化芸術がひろく「つぎのとびら」～

今後の札幌市における文化芸術支援について、現場にかかわる方々の生の意見をお聞きするため、イベントを行いました。

【日時】令和7年12月1日(月) 17:30～20:30
【会場】カナモトホール 会議室1・2(札幌市中央区北1条西1丁目)
【プログラム】

- ◇話題提供「芸術支援と文化政策の現在地」《話し手》吉本光宏
- ◇事業説明「さっぽろの文化芸術『今のとびら』」《説明者》札幌市文化部
- ◇トークセッション「地域による違いを知ろう！」
《登壇者》遠藤水城、野村政之、本田修、関鎮京、山本麻友美、若林朋子
- ◇グループワーク
- ◇コネクトタイム「交流の場」



グループワークでの主な意見

- ◆札幌市の文化施策について、もっと役割分担がはっきりすると良い
- ◆知る機会・交流の機会が見つけれなかったりする。ネットワーキングがほしい
- ◆支援制度は、数値ではなく、地域にどうコミットするかなどの成果指標があると良い
- ◆文化施策は、アーティストだけでなく、アートに接点のない市民にもアプローチするべき

～採択事業者向けアンケート～

令和7年度採択事業者に対し、本事業の改善点等についてアンケートを実施しました。

【公募期間・事業期間について】

- ◇事業内で公募を行う場合、採択が決定してから公募、採択、事業実施までに2カ月は要するため、結果的に事業実施期間が圧迫されている
- ◇事業内公募の仕組みそのものについて検討の余地があるのでは
- ◇単年度事業なので仕方ないと思うが、事業時間が短い、募集期間は1カ月あれば十分では

【補助額および補助対象経費について】

- ◇アーティストを支援するためには事務経費が膨らむため全体の予算を増額すべき
- ◇収支予算の段階で審査に通るために事業費を盛って人件費を削るということが起こらないか心配
- ◇対象経費に人件費が含まれているなど柔軟な設計ができるとうところがありがたい

【事務局の対応について】

- ◇採択団体同士でより積極的なコミュニケーションがとれるような仕組みがあると良い

【アドバイザーの仕組みについて】

- ◇困ったときにはすでに時間がないたため定期的に相談できる仕組みがあると良い
- ◇中間報告会などを設定してもらえると良い

【その他】

- ◇中間支援団体が間に入ることで助成金活用経験がないアーティストも支援できるところが良い
- ◇フィードバックの場を意識的に設けていただきたい
- ◇中間支援を担うことのできる人材が不足しているため継続的に育成を行う必要がある

6 評価検証委員会

検証委員会では、本事業のあり方や、札幌市に必要なアーツカウンシル機能について、議論を行っていただきました。

氏 名	所 属 等 （令和8年3月31日時点）
本田 修	元国際交流基金 文化事業部長
右谷 誠	札幌市民交流プラザ センター事業部長
山本 麻友美	京都芸術センター 副館長
吉本 光宏	合同会社文化コモンズ研究所 代表
若林 朋子	立教大学大学院社会デザイン研究科 特任教授

★★ 第1回委員会 ★★

【各プロジェクトの成果と考え方について】

- ◇アートが介在することで何が起きて、どのような意味があったのかを明らかにすること自体がプロジェクトの目標になり得る
- ◇育成プログラムを受講した人がどう育成されて、どのような広がりが生まれたかということも新しい指標の一つになる
- ◇単年度では形にならないものもある。時間の観点も含めて成果を捉えると良い。数字にならないものを大事に示していくことが必要
- ◇中間支援団体を介して助成する意味を長所として捉えるべき

【札幌市に必要なアーツカウンシル機能について】

- ◇アーツカウンシルのあり方について、形から考えるのではなく、本事業に取り組む中で札幌市に必要なアーツカウンシルについて検討し、その実現に向けて組み立てることが必要

★★ 第2回委員会 ★★

【札幌市に必要なアーツカウンシル機能について】

- ◇中間支援団体による支援は、彼らが培ったネットワークを活用しているものであるから、団体自身が目指すあり方を尊重できる仕組みになると良い
- ◇実証実験の期間中は、事業手法を変更せずに検証材料を集めるのが良いと思う
- ◇この委員会は「札幌市におけるアーツカウンシル機能の検討」を行うことが役割。まずは札幌市の文化施策の基となる理念を確認・共有し、その実現のために必要な機能や体制について丁寧に検討を進めていきたい
- ◇SCARTSとの役割分担についても併せて検討するのであれば、SCARTSで実施している助成金についての検証も必要になる
- ◇20年後、30年後を見越して、札幌市としてどういう活動を支援していきたいかということを委員会で共有できると、方法論も考えやすいのではないか
- ◇本事業は、細かな手法自体に修正は必要ないかもしれないが、他地域と比較しても類のない価値のある取組であると思う
- ◇中間支援や伴走支援の取組は評価されにくく、経費が真っ先に削減されがち。札幌市では、ここの予算を削るという考え方はしないほしい
- ◇予算が増えれば、もっと支援を受けられる人が増え、多角的・多層的な支援が実現できると思う。中間支援団体による支援を受ける人が限られているとすると、それは予算の問題
- ◇現行の手法は再支援制度と呼ばれ、直接支援よりもきめ細かい支援が可能であることが特徴

★★ 第3回委員会 ★★

【令和7年度事業報告書の項目について】

- ◇報告書内の「アーティストの意識の変化の数」という項目は、本事業により生まれた変化が把握できて良いと思う
- ◇具体的な変化の内容もわかるのが良い。「アーティストの意識変化とその数」という記載の方がわかりやすいのでは

【令和8年度事業について】

- ◇採択者アンケートをもとに公募要領を更新していく姿勢は良いと思う。その姿勢をきちんと見せていくことで、札幌市への信頼が高まる
- ◇様々な意見はプールしておいて、今後の課題として活用していくことが重要

【令和8年度以降の事業の進め方について】

- ◇採択団体のヒアリングにより出てくる課題は、重要性は高いが個別具体的なものが多い傾向になると思う。これらをビジョンなどにどう結びつけて戦略化するかが大切
- ◇札幌市の文化芸術に関する支援内容について枠組全体で示せればと思う
- ◇ワーキンググループのメンバーを選ぶのは難しいが、ある程度、流動性・任期があれば、「みんなで参加している」意識が高まるのではないかな
- ◇ワーキンググループのメンバーについて、多角的に物事を考えられる人がいると良い
- ◇来年度は、実証実験の最終年度であるため、提言が必要になるだろうから、初回から議論を進めるべき
- ◇アーツカウンシルを上手くスタートさせるためには、札幌市の次期アクションプランの掲載内容が重要

★★ 第4回委員会 ★★

【令和7年度採択事業の報告・検証について】

- ◇全体を通して「ネットワーク」、「自主性・自発性」、「プロセス」を大切にしているのがわかった、充実していて素晴らしい活動ばかり
- ◇中間支援団体としての姿勢・意識が鮮明になってきたように感じる。「採択・非採択に関わらず協力体制の構築を試みた」という報告の団体があったが、これは中間支援団体としては非常に高度なこと
- ◇自分たちのポリシーを語って対話を行ったという、中間支援団体の態度として大切なところが実践できており、これは日頃からしっかり考えているから対応できること
- ◇各中間支援団体の事業実施の中で課題は、団体の努力だけでは解決しないものもある。政策としてどう改善していけるかが、今後の支援制度のあり方を考えるうえでも大切。各団体が掘り起こした課題をうまく取り入れるとともに、今行っている、あるいはこれから行おうとしている団体との関係性を行政がどう構築していくかも重要

7 令和8年度に向けた改善点

過去の評価検証委員会や採択団体向けアンケートをもとに下記の改善を行いました。

①事業期間の延長

応募期間を2週間程度短縮することで、補助対象期間をできるだけ長く確保するようにしました。

②採択者同士の交流機会の拡大

採択者同士のコミュニケーションの機会を増やせるよう、イベントの実施やミーティングの設定などを検討します。

③事業報告書の改訂

事業の広がりや、影響の度合いを可視化するため、採択者が実施した公募についても、その応募数や採択数などを記載いただくようにしました。

④採択後の負担の軽減

公募必須の区分で採択を受けた場合、採択者の公募作業に時間を要することから、事業期間の圧迫を防ぐため、申請時に公募方法の概略を記載していただくようにしました。

⑤アドバイザーの活用

採択事業の質の向上や採択事業者の成長を促すことを目的として設置しているアドバイザーを積極的に活用してもらうように働きかけます。

8 今後の検討の見通し

第4期札幌市文化芸術基本計画において、重点取組事項の一つとして「札幌に適したアーツカウンシル機能の検討」を掲げています。本事業は、その中核事業として、令和8年度は下記のとおり、検討を進める予定です。

①評価検証委員会での議論

令和6・7年度に引き続き、札幌市に必要なアーツカウンシル機能について、ご議論いただきます。令和8年度は、札幌市全体の施策を確認しながら、さらに議論を深めてまいります。

②ワーキンググループの実施

評価検証委員会で議論されたことを、より地元に関わり添った目線で検討するため、札幌市内の文化関係者をメンバーとしたワーキンググループを実施します。

③イベント・ヒアリングの実施

札幌市内で活動するアーティストなどの現場の声を吸い上げるため、本事業の周知と意見交換などを目的としたイベントを実施します。また、過去の採択者や支援アーティストに対し、ヒアリングを実施します。

《令和8年度事業スケジュール》

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①評価検証委員会	● 第1回		● 第2回		● 第3回		● 第4回		● 第5回
②ワーキンググループ			9月頃から複数回実施予定						
③イベント・ヒアリング						●イベント			
	ヒアリング(年度内に複数回実施予定)								

9 過去に実施した事業

(1) 令和4年度

【公募概要】

補助対象 テーマ	創造活動活性化	活動基盤・環境改善	挑戦的活動支援
	コロナ禍において逼迫している文化芸術活動の創作・発表支援に寄与するもの	より充実した文化芸術活動を継続するための基盤強化や環境改善に寄与するもの	文化芸術活動を通じた社会的課題へのアプローチやコロナ禍での新たな価値の発見や創造に寄与するもの
補助限度額	500万円		
補助率	補助対象経費の10分の10		
応募件数	19件	16件	8件
採択件数	1件	3件	0件

【採択事業者】

一般社団法人PROJECTA

事業名	Sapporo Art Index
概要	札幌市における美術分野のアーティスト等のうち、今後の活躍が期待される活動や全国的な発信力が期待される活動を支援する「助成プログラム」と、アートマネジメント講座やステートメント講座を開く「育成プログラム」を実施する。
事業費 (補助額)	5,189,740円 (5,000,000円)
支援 対象者数	◇助成プログラム (市内 6組19名／国内外 4組6名) ◇育成プログラム (アートマネジメント講座のべ117名) (ステートメント講座 15名)

一般社団法人AISプランニング

事業名	アーティストの新たな活動領域開拓のためのネットワーク構築支援事業
概要	アーティストが普段の活動を商店街・小学校・児童館など文化施設以外の場所で展開するためのサポートや将来の作品発表に向けたアーティスト・イン・レジデンス型のプログラムなどを実施する。
事業費 (補助額)	5,189,514円 (5,000,000円)
支援 対象者数	◇札幌での活動助成 5名 ◇創造活動支援プログラム 3名 ◇人材育成プログラム 12名

Hokkaido Artists Union Studies(HAUS)

事業名	もうひとつの声 The Other Voices
概要	アーティストが恒常的に抱える課題や、緊急性の高いトラブルからの解放を目指し、これまで公的助成の対象とならなかった方も含めて助成や伴走支援などを行う。
事業費 (補助額)	5,031,573円 (5,000,000円)
支援 対象者数	◇ハウス・サバイバル・アワード 40組 ◇アーティストツリー 58組 ◇Webアーカイブ 18件 (インタビュー 3件) (伴走レポート 15件)

公益財団法人北海道演劇財団

事業名	上質でゆとりのある作品創造のための稽古場支援
概要	演劇団体などを対象として、本場環境と同じ、または同等の広さを確保できる施設を練習場所としてコーディネート。また、施設使用料の支援や舞台づくりへの助言・相談対応なども行い、対象団体のパートナーとして並走しながら支援する。
事業費 (補助額)	4,111,825円 (4,111,825円)
支援 対象者数	◇11団体／340名

(2) 令和6年度

【公募概要】

応募区分		新たな創造活動への チャレンジに対する支援	文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携	
			公募型	事業型
補助限度額		300万円	200万円	100万円
補助率		◇補助限度額内で、補助対象経費の全額(10分の10)を補助する ◇収入が生じた場合は、当該収入額を補助額から相殺(減額)する		
補助 対象 期間	地域 要件	◇応募者が札幌市内に拠点を有する団体または札幌市内を主な拠点とする個人であること ◇札幌市内を活動拠点とするアーティストを支援対象とすること	◇応募内容が札幌市内で行われる活動であること(応募者が札幌市内に拠点を有する者である必要はない) ◇札幌市内を活動拠点とするアーティストがプロジェクトに参加すること。ただし、より効果的にプロジェクトを推進するため必要と判断される場合に、札幌市外のアーティストを併せて参加させることを妨げるものではない	
	公募の 有無	◇支援対象のアーティストを広く公募すること	◇プロジェクトに参加するアーティストを少なくとも1名公募すること	◇特に公募を要件とはしない
応募件数		7件	11件	22件
採択件数		1件	2件	3件

【採択事業者】

【新たな創造活動へのチャレンジに対する支援】

一般社団法人AISプランニング

事業名	文化芸術活動を通じたコ・クリエーション事業
概要	創作活動における新たな挑戦や異なる分野との交流活動を行うアーティストに対して伴走支援を行う。併せてアーティストの活動を支える人材を発掘・育成するコーディネート育成プロジェクトも並行して実施する。
主な活動	◇プロジェクトを公募で採択したアーティストに対し伴走型支援を行う ◇研修、見学、実践によるコーディネート業務を柱に、アーティストを支援する人材の発掘・育成を行う
事業費 (補助額)	3,092,858円 (3,000,000円)
支援 対象者数	アーティスト支援プログラム 4名 コーディネーター育成プログラム 20名
公募への 応募者数	23件
他分野 連携数	教育機関や企業、財団法人など12か所

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(公募型)】

特定非営利活動法人コンカリーニョ

事業名	こどもとアーティストを繋げるプロジェクト
概要	劇場が地域社会とアーティストの間に立ち、教育と芸術文化をつなぐ仕組みを構築することで、子どもの創造性と居場所づくりをするとともに、さらにはアーティストの活躍の場も広げていく。
主な活動	◇アーティストが講師となりワークショップを通じて子どものコミュニケーション能力や創造性をはぐくむ ◇アーティスト等が教育現場で活躍する先輩アーティストと対談する場を提供する
事業費 (補助額)	2,034,086円 (2,000,000円)
支援 対象者数	6組/15名(アシスタント含む)
公募への 応募者数	15件
他分野 連携数	ゲスト7組 参加者27名(幼稚園教諭、社会教育士、社会福祉士、企業経営者、僧侶、大学教授、大学生など)

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(公募型)】

CO LA
(Community Dance Laboratory Sapporo)

事業名	公募ダンサーによるコミュニティダンスを通じた社会的処方の実践事業
概要	コミュニティダンスの展開に向けた継続的な仕組みの構築を目指し、札幌を拠点として活動するダンサーを公募し、医療・福祉・教育分野を中心とする団体と連携したコミュニティダンス実践を支援する。
具体的な活動	◇公募ダンサーを障がい者施設や保育所等に派遣し、各所でコミュニティダンス実践を実施する
事業費(補助額)	2,024,244円 (2,000,000円)
支援対象者数	4名
公募への応募者数	14件
他分野連携数	5団体(ウェルネス南平岸駅前、ウェルネス南平岸、ライフサポート美園、さずな麻生保育園、こどもサポートりんく新琴似北園)

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(事業型)】

札幌OS物流 株式会社

事業名	障がい者の自立と社会貢献を支援するトラックアートプロジェクト
概要	障がい者がアート活動に参加しやすい環境整備を目指し、多くの人にパラリンアートの素晴らしさを知ってもらうために、日々運送業を営む当社のトラックの両サイドにパラリンアートを掲載し、日常の中でパラリンアートに触れてもらうアートプロジェクトを実施する。
具体的な活動	◇パラリンアートを2点選定し、11トントラックに掲載し、走行することでパラリンアートの素晴らしさを知ってもらう
事業費(補助額)	1,480,710円 (1,000,000円)
支援対象者数	2名
他分野連携数	5社(トータル企画㈱、極東高分子㈱、北海紙工業㈱、新生紙バルブ商事㈱、㈱物流ニッポン新聞社)

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(事業型)】

meets AYNУ 実行委員会

事業名	meets AYNУ 2025
概要	アイヌの音楽、踊り、歌のほか、体験型のワークショップやアイヌの食に関する展示、アイヌ文化についての相談会などを同時開催し、大人も子どももアイヌ文化を体感できる場を提供する。
具体的な活動	◇アイヌのライブ(音楽、踊り、歌) ◇アイヌ舞踊ワークショップ ◇アイヌしよくLab展示 ◇アイヌ文化活用ミニ相談会
事業費(補助額)	1,177,484円 (1,000,000円)
支援対象者数	4組14名
他分野連携数	2団体6名

【文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携(事業型)】

シュウカツ 実行委員会

事業名	シュウカツ/周活
概要	美術館や劇場、大学、民間企業等と連携を行い、展覧会やイベントで廃棄される予定の資材を回収し、別の展覧会やイベント、アーティストの制作のために提供する事で、継続的な文化インフラの構築を目指す。
具体的な活動	◇美術館、大学、民間企業等と連携して、イベントで廃棄される予定の資材を回収し、別のイベントに提供する
事業費(補助額)	987,284円 (943,284円)
支援対象者数	約50組 (アーティスト、文化施設)
他分野連携数	10団体